第４章

社会教育推進計画

長沼町社会教育推進目標
町民の学びを支え、学んだ成果が生かされる生涯学習社会を目指す社会教育の推進

社会教育重点目標
（１）生涯各期の学習機会の充実
（２）学校・家庭・地域が連携した子どもの健全育成
（３）文化芸術に触れた心の豊かさの向上

１　家庭教育

２　社会教育
（１）少年教育
（２）青年教育
（３）成人教育
（４）高齢者教育
（５）文化芸術・文化財
（６）図書館

長沼町社会教育推進目標

町民の学びを支え、学んだ成果が生かされる生涯学習社会を目指す社会教育の推進

社会教育重点目標

１　生涯各期の学習機会の充実

２　学校・家庭・地域が連携した子どもの健全育成

３　文化芸術に触れた心の豊かさの向上

1　家庭教育

【現状と課題】

家庭は、子どもの教育の出発点として基本的な生活習慣や生活能力、社会性や自制心を涵養する場であり、家族の元で愛情をもって教育され、家族の一員として自分の役割を果たしながら成長していきます。

特に乳幼児期は母子の信頼関係が、その後の成長に大きく関わり、人間的な関わり合いの中で的確なしつけを行い、基本的な生活習慣を身に付けさせる必要があります。

しかし、核家族化や都市化などの社会環境の急激な変化により、地縁・血縁関係が希薄化し、子育てをめぐるコミュニティの支援体制が弱い状況にあり、子どもの成長にも少なからず影響を与えています。

家庭教育は親の責任の下で行われる教育で、個々の家庭に委ねられるものですが、本来の家庭教育が行われていない現状が少なからず見受けられるため、現在は社会全体で家庭教育を支えていくことが求められています。

そのためには学校・家庭・地域が連携し、それぞれの役割を果たしつつ三者が子どもを育てるという同じ視点を持って子どもを育むことが重要となってきます。

長沼町では、新たに設置した子ども育成課で「第２期子ども・子育て支援事業計画」（計画期間：令和２年度～令和６年度）を策定し、また、子育て世代包括支援センターの設置や児童センター「ぽっくる」の有効活用など児童福祉施策体制をさらに整備し、子を持つ親の子育て支援を総合的に推進しています。

教育委員会では、学校とＰＴＡが中心となって行っている家庭教育学級を全ての学校で行っているほか、子ども育成課との連携事業として乳幼児を持つ親向けにｍａｍａ講座を年間１０回ほど開催し、親が安心して家庭教育が行えるよう支援しています。

また、放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう全ての児童を対象とした、学習や体験・交流活動などを行う「放課後子供教室」や「土曜日の学習支援活動」を定期的に開催しています。

現代社会では、子育ては地域全体で支えることが求められてきており、このため、家庭や地域が教育力を高めていくことが重要であり、学びの機会の充実やより多くの地域の方の参画が求められます。また、子育てを終えた経験者や子育て中の親などで組織するネットワークづくりも必要となってきます。

【主要施策】

・行政間の連携による家庭教育支援事業の充実
・子育て中の全ての親への情報発信

２　社会教育

（１）　少年教育

【現状と課題】

少年期は、急速に自分の世界を広げ、大人に向け大きく成長する時期です。また、理論的思考や理解力が進み、心身の成長も著しくなります。

特に、中学生においては独立心や自立心が身に付き、子どもから大人へと大きく成長する時期ですが、受験等を控え精神的にも不安定になりやすく、家庭では日頃の親子のコミュニケーションはもちろん、心にゆとりを持って接することが大切です。

近年、核家族化、少子高齢化、都市化、地縁や血縁関係の希薄化といった社会環境の中で、社会性や人間関係、自立心の形成などに課題を抱える子どもが増加していると言われています。

文部科学省の平成３０年度の調査によると、小学生の１４４人に１人、中学生の２７人に１人が不登校であり、８年前と比較すると約２倍増しているという現状があります。このような喫緊の課題を解決するためには、学校・家庭・地域が連携、協力して、豊かな人間関係、社会性を身に付ける環境を醸成していく必要があります。

長沼町教育委員会では、コミュニティ・スクールの導入に伴い、学校・家庭・地域の連携協力推進事業として「地域学校協働活動本部」を設置し、放課後子供教室、学校支援事業、家庭教育支援事業並びに土曜日の学習支援活動を実施しています。また、子ども育成課で所管する放課後児童クラブと連携した放課後児童対策（新・放課後子ども総合プラン）にも取り組んでいます。

「地域学校協働活動本部」は、地域と学校が協働して地域全体で子どもたちの成長を支えることを目的に、地域と学校を結ぶ役割をもった組織であり、今後はさらに多くの地域の方の参画を得て学校を支援し、「地域とともにある学校づくり」を推進し、郷土に根ざした学習の場を設けるなど、地域の人と子どもたちが触れ合う環境づくりを目指します。

また、保護者は家庭教育の責任者として、地域住民は地域教育の責任者として自覚を持ち、それらの事業がより効果的に推進されるよう、より多くの地域住民が事業に参画し、子どもたちの健全育成に関わることも大切です。

【主要施策】

・学校・家庭・地域の連携協力体制の強化
・地域創学の取組と充実

（２）　青年教育

【現状と課題】

青年は、在学青年と勤労青年に大別されますが、大人への準備期間として将来に夢と希望を持ち、自らの人生をどのように設計するかについて考えるとともに、社会の様々なことについて興味、関心を抱き、自らの目標に向け積極的に課題を見つけ克服していく時期です。

しかし、現代社会においては、高度情報化、都市と地方の分化、雇用形態の多様化、経済のグローバル化など、取り巻く環境は急速に変化しており、これに伴い、ニートやフリーター、ネット依存者やひきこもりなど、自立困難度の高い若者が増加しつつあることが懸念されています。

青年は、社会を構成する重要な一員として存在しているという自覚、社会の発展のために貴重な原動力となっていることを認識し、自らの明確な人生の目標を持って日々を過ごすことが大切です。

長沼町では、主に勤労青年で組織される青年団、商工会や農協の青年部があり、町の行事を積極的に支援したり自主的に様々な活動を行ったりしているものの、会員、新会員の減少、構成会員の恒常化など、様々な課題を抱えつつ現状を維持している状況にあります。

今後は、このような団体の支援、育成に努めることはもちろん、それらに属さない青年層へは社会参画を促す学習の場や機会を設け、まちづくりの原動力となる人材を育成することが求められます。

【主要施策】

・魅力ある学習機会の充実
・青年団体への支援

（３）　成人教育

【現状と課題】

科学技術や情報メディアの高度化、少子高齢化、核家族化といった社会の大きな構造変化の中で、地域社会や家庭環境の在り方が大きく変化しています。

また、地域を構成する地域社会の一員としての意識や地域の連帯感も薄れ、家庭が孤立化し各家庭における子育てにも影響を及ぼしている現状にあります。

成人期は、心身ともに成熟し、就労、結婚、子育て等、人生の中でも大きな出来事に直面する時期であると同時に、人生観、社会観も養われ、社会的には責務と役割が大きく求められる時期でもあります。

しかしながら、大部分の成人者は就労と子育てに追われ、社会における今日的な課題を学習したり職業についての一段上の知識や技能を習得したりするなど、広範な学習活動が求められているにもかかわらず、学習活動に向ける意識は必ずしも高いとは言えない現状にあります。

長沼町においては、行政が行う生涯学習教室、町民が自主的にグループを作り学習活動を展開する生涯学習自主企画事業等が幅広く行われていますが、参加者については成人期の中でも子育てを終えた主婦層に固定されていることや、男性の参加率が低いといった課題が続いています。

今後においても、学びを通じて人生を豊かにするという生涯学習の必要性と重要性が認識され、来るべき高齢期に備えられるよう、更なる学習機会の充実と情報を提供していく必要があります。

【主要施策】

・学習情報の的確な発信
・町民のニーズに応じた学習機会の充実

（４）　高齢者教育

【現状と課題】

平均寿命の伸長と少子化により既に日本は高齢化社会から超高齢化社会に突入しております。

我が国は平成２０年をピークに人口減少が始まっており、今後高齢化はますます加速していくことが見込まれ、令和４７年には、全人口の約25％が75歳以上の後期高齢者になり、高齢化率も38％を超えると予想されています。

高齢者がキャリア後の数十年間の人生を身体的にも経済的にも自立した生きがいのある生活を送るためには、キャリア時代に高齢期に向けた学習活動はもちろん、日頃から地域行事に参加するなど豊かな人間関係を築いておく必要があります。

そして、キャリア後には、現役時代に培った知識、経験、技能を生かせるよう地域で活躍したり趣味などを通じて生きがいを見出したりすることが大切です。また、高齢者が地域社会で活躍することは現代社会からも求められており、そのような活動が高齢期の生きがいにつながっていると考えられています。

超高齢化社会となった現在、益々これからの高齢者は、社会に守られ支えられるといったイメージではなく、積極的に社会に出て新たな自分を発見したり自分らしい生き方を選択したりしながら社会に貢献することで有意義な人生を送られるよう、環境を醸成することが大切です。

長沼町では、４地区において６０歳以上を対象に高齢者の学びの場として豊生大学を開設し、健康講座、生活講座、映画鑑賞などを実施しているほか、シニアクラブが各地域に在り、それぞれにおいて親睦、交流を深め、生きがいづくりの一端を担っている現状にあります。

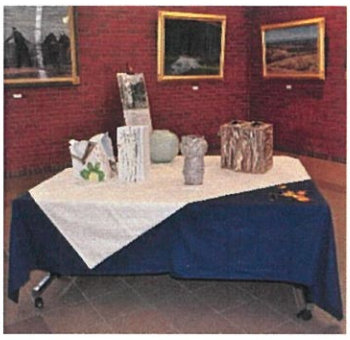
現在は、高齢化しているにもかかわらず、健康的に過ごしている高齢者が多く、その多くは社会に参画することで生きがいを見出している状況にあることから、豊生大学やシニアクラブでの活動が更なる生きがいづくりとなるよう支援し、孤立・孤独となる高齢者が出ないよう地域に呼びかけ、高齢者の活動が地域活動につながるよう、その方策をさらに整備検討する必要があります。

社会参画、地域貢献活動を希望する高齢者が増えることにより、地域では豊かな人間関係が形成され、地域の活性化へもつながっていきます。

【主要施策】

・健康維持のための学習機会の充実
・地域づくりに向けた社会参画への促進
・学習ニーズに応じた学習機会の充実

（５）　文化芸術・文化財



【現状と課題】

文化芸術活動は、人々を感動に導き、その感動が美的情操を高め、豊かな人間性を涵養します。また、地域の文化遺産は、地域に暮らす人々の心のよりどころとして、地域のコミュニティを形成する上において、極めて重要な役割を果たしています。

長沼町では、３６団体約４６０名で構成される文化協会が長沼町の文化振興の担い手となって活動しており、１１月には文化の祭典ともいえる町民文化祭が姉妹都市である奥州市を招き盛大に開催されています。

また、サポート会員を含め約４０名の芸術家で構成されるアート協会は、各自の創作活動のほかに、年１回「アートピクニック長沼めぐり」を開催しており、町内だけではなく町外にも参加を呼びかけ、長沼町の文化振興とまちづくりに向けた活動を行っています。

その他にも、実行委員会を構成し自らの企画でコンサートを開催したり図書館では年間を通じて各種文化団体の作品展が開かれたりするなど、長沼町の文化水準は非常に高いものがあります。

しかし、各団体の会員は恒常化しているうえに減少の一途をたどっているほか、高齢化といった課題もあり、今後においては、協会、団体間の交流や協力、情報交換を通じて相互の活動が活性化するよう方策が必要です。

また、団体に所属しない個人に対しては、文化芸術に触れる機会を充実させ、文化活動に加わる意識と意欲を高めることも必要です。

長沼町の郷土芸能として、長沼町勇獅子舞保存会、長沼百年太鼓保存会、長沼町田植歌おどり保存会がありますが、町の文化遺産として次の世代へ確実に継承されなくてはなりません。会員、指導者の確保と活動支援に努める必要があります。

埋蔵文化財関係では、６５の包蔵地と１２区Ｂ遺跡出土の異形環状土器、幌内西村遺跡出土の壺形土器の２種類が町指定の有形文化財に指定されており、貴重な文化遺産としてその保存に努めていくことが求められます。

また、町民の文化芸術活動や文化財意識の向上を図るためには、芸術作品をはじめ文化財に触れられる機会を充実させなければなりません。そのためには既存施設の有効的な利用や旧校舎跡地の活用など、多角的に検討する必要があります。

【主要施策】

・質の高い文化芸術鑑賞機会の充実
・郷土資料や文化遺産を身近に触れることのできる施設の整備
・文化財の保存と継承
・文化活動の拠点となる施設の整備

（６）　図書館

【現状と課題】

長沼町図書館は、平成５年に開館し２８年が経過しています。

蔵書は１１万冊を超え、郷土資料の長沼町に関する資料や北海道の資料も徐々に増加しています。

一方、近年はＩＴメディアの急速な発達によって、パソコンやスマートフォン等が大幅に普及し、多種多様な情報の取得と発信が容易となったため、常に新しい知識を大量に学習し続ける状況になりつつあります。

長沼町全体の読書傾向をみても、娯楽、趣味の多様化や共働きの増加等により、読書に向ける時間的余裕が少なく、読書の機会や図書館に足を運ぶ機会が減少しつつあります。

しかし、読書活動は知識の取得だけではなく、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で、欠くことのできないものです。また、図書館は手軽に情報や知識を得られる場でもあり、移動図書館車の効果的運用も含めて、幅広い年齢利用者層へのサービスを充実させる必要があります。

特に、子どもの読書離れが指摘されている昨今ですが、子どもの読書習慣は日常生活の中で身に付けていくもので、家庭の読書環境が大きく影響します。保護者が家庭で読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館に一緒に行くなど、子どもが本に親しめる機会を設けることが重要です。

図書館は、家庭での読書環境が充実するよう支援し、保育園、学校教育施設や児童センター等の関係機関との連携を深め、子どもの読書習慣の定着を図るとともに、町民全体の生涯学習の拠点として、幅広い資料の収集とレファレンスサービスに努め、来館者数の増加に繋げていく必要があります。

【主要施策】

・各年齢層に配慮したサービスの充実
・家庭での読書活動の支援
・学校教育施設等、関係機関との連携強化
・利用者のリクエストやレファレンスサービスの充実